

## 第3章 グループワーク（各アクティビティ）の紹介

### I わたしたちのまち

小学校 4～6 年生・50 分

カードの情報をもとに3人の小学生が住んでいるまちの地図を完成させるゲームです。

#### 1 ねらい

グループで課題を達成していく過程で、以下のことに気づくことがねらいです。

- (1) 言語によるコミュニケーション（「伝える（話す）」「聴く」「質問する」）の方法及びその難しさ、大切さ
- (2) グループにおける自分や他のメンバーの役割
- (3) グループで課題を達成するためには協力することが大切であること

#### 2 対象および人数

- (1) 小学校 4～6 年生
- (2) 1 グループ 5～7 人  
いくつかのグループが同じ場所で同時に実施することができます。

#### 3 準備するもの

- (1) タイマー（ファシリテーター用）
- (2) 未完成の地図（A3 版（グループ用）） 1 グループ 1 枚＜P12 参照＞
- (3) 素材（学校や橋など） 1 グループ 1 セット＜P13 参照＞
- (4) 情報カード（グループ数＋ファシリテーター用） 1 グループ 1 セット＜P14～15 参照＞  
情報カードは各グループとも同一セットであること。
- (5) 正解 1 グループ 1 枚＜P16 参照＞
- (6) ふりかえり用紙 1 人 1 枚＜P87・88 参照＞
- (7) グループ発表用記録用紙（A4 用紙） 1 グループ 1 枚

#### 4 時間 50 分

- (1) 導入 5 分
- (2) 実習（ゲーム） 20 分
- (3) 各グループの結果発表 5 分
- (4) ふりかえり 15 分
- (5) まとめ 5 分

#### 5 課題

情報カードの情報をもとに、未完成の地図に必要な素材（学校や橋など）を正しい位置に置いて完成させてください。

#### 6 ルールの指示

各自が持っている情報は言葉で伝え、他人の情報カードを見たり、他人に渡したり、見せたりはできません。また、情報を一覧表にして書いたりしてはいけません。

7 進め方

手 順	留 意 点
<p>(1)導入 (5分)</p> <p>① 各グループに情報カードを配布する。</p> <p>② 情報カードの枚数(18枚)を確認するように指示する。</p> <p>③ 実習名、ねらいを提示し、課題解決の実習をすることを説明する。</p> <p>④ 課題、ルールの説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カードの枚数を確認することを指示する。</li> <li>• 返却時も枚数を確認することを指示する。</li> <li>• 質問がないか聞く。</li> </ul>
<p>(2)実習の実施 (20分)</p> <p>① グループの全員に情報カードを均等に配布するように指示する。</p> <p>② 情報カードが行き渡ったら、各自のカードを確認させる。読めない字、意味不明な表現などがあれば質問を受ける。</p> <p>③ 開始を告げ、時間を計る。(20分間)</p> <p>④ 解答が出たグループは全員で手を挙げてファシリテーターに知らせることを確認する。</p> <p>⑤ 正解だった場合、正解の用紙を配布する。</p> <p>⑥ 正解でなかった場合、再度考えさせる。</p> <p>⑦ 所定の時間になったら、作業が途中であっても実習を打ち切る。</p> <p>⑧ 情報カードの枚数を確認し返却させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループの人数によっては、全員が同じ枚数になるとは限らないことを確認する。</li> <li>• 時間の配分は板書しておくことよい。</li> <li>• 実習中は、その様子を観察し、まとめの話の参考にする。</li> <li>• ふりかえり用紙の記入方法を指示する。</li> </ul>
<p>(3)各グループの結果発表 (5分)</p> <p>① 正解できなかったグループに正解の用紙を配布し、途中で正解を出したグループも含めて正解を確認する。</p> <p>② 正解できたグループ順を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 正解したグループの所用時間を板書しておく。</li> </ul>
<p>(4)ふりかえり (15分)</p> <p>P85参照</p>	
<p>(5)まとめ (5分)</p> <p>「話す」「聴く」「協力する」という観点で発表で出たふりかえりをもとに話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループの発表で出てきていないことがあれば補足する。</li> </ul>

## 8 ふりかえり

### (1) 個人記入

ふりかえり用紙に個人で記入してもらおう。

### (2) グループ共有

ア 司会・記録・発表者を決めてもらう。

イ ふりかえり用紙の質問項目1～3について順番に各自グループ内で発表する。

### (3) 発表

ア 1(1)～(5)について、名前ではなく人数を発表する。

イ 2について、各何点か発表する。

## 9 まとめ

各グループの実習の様子や発表をふりかえりながらまとめます。ファシリテーターは実際にあったことなど実習中の具体例を交えて話すといよいでしょう。

まとめにあたっての観点(例)として次の項目があげられます。

### (1) 話す

グループの他の人に意見や考えを伝えることができたか。

### (2) 聴く

グループの他の人に意見や考えをきちんと聴くことができたか。

### (3) 協力する

ア 役割分担ができていたか。

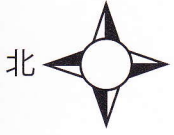
イ まとめ役(リーダー)のもとで協力できていたか。

### こんな使い方も・・・「グループワークを定期的に活用した学年・学級経営」

ここ数年、「中1ギャップ」という言葉を耳にします。小学校を卒業した子どもたちが中学校に進学し、その環境の変化から学校に馴染めず不登校となったり、いじめが急増するという現象です。また、授業に集中できず常に騒がしくしたり立ち歩いたり、落ち着きのない状態が表面化することもあります。

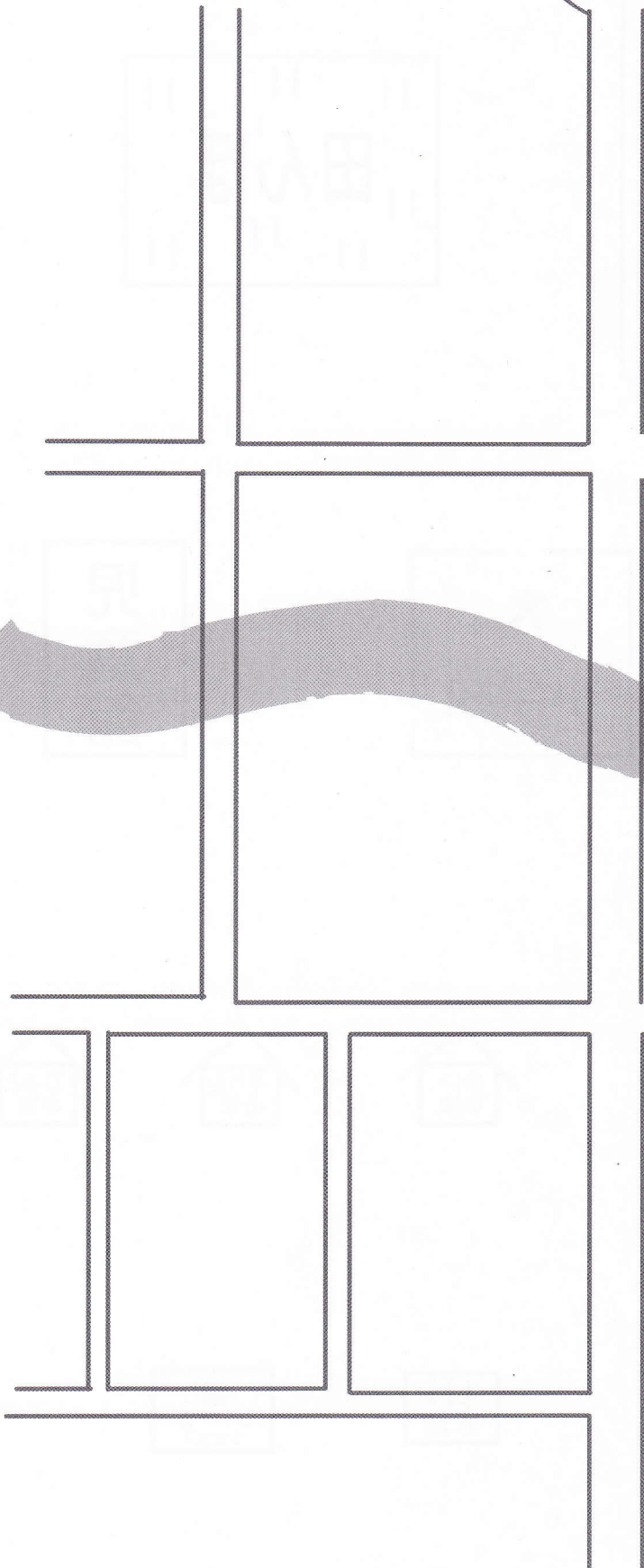
ある中学校では、「グループワーク」に注目し学年経営の手法として位置づけました。入学当初から月に1回程度の割合で、学年でコミュニケーションゲームを中心とした「グループワーク」に取り組んだのです。その結果、それまで自分に自信が持てない子どもが多くて、クラス全体がほとんど発言のない「無気力」な状態だったのが、少しずつ発言が増え、やがては授業でも学級会でも活発に意見が飛び交う雰囲気になってきました。また、「自分中心」だった生徒たちが「他人に目を向ける」ようになり、他人を大切にする、そして、本当の意味で自分を大切にする気持ちが育ってきました。指導した先生方も「グループワークを通して、生徒たちは大きく成長した」と感じているようです。

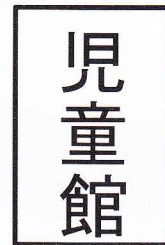
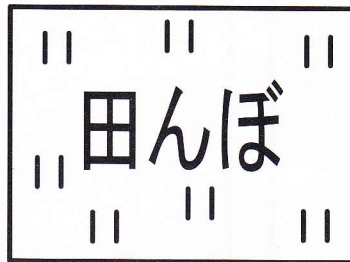
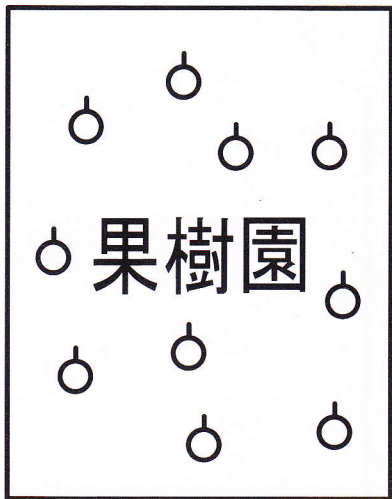
このように、グループワークには取り組んだ1人ひとりに大きな「気づき」が生まれ、今後の生活をより良くしようという「自己変容」につながる効果があります。

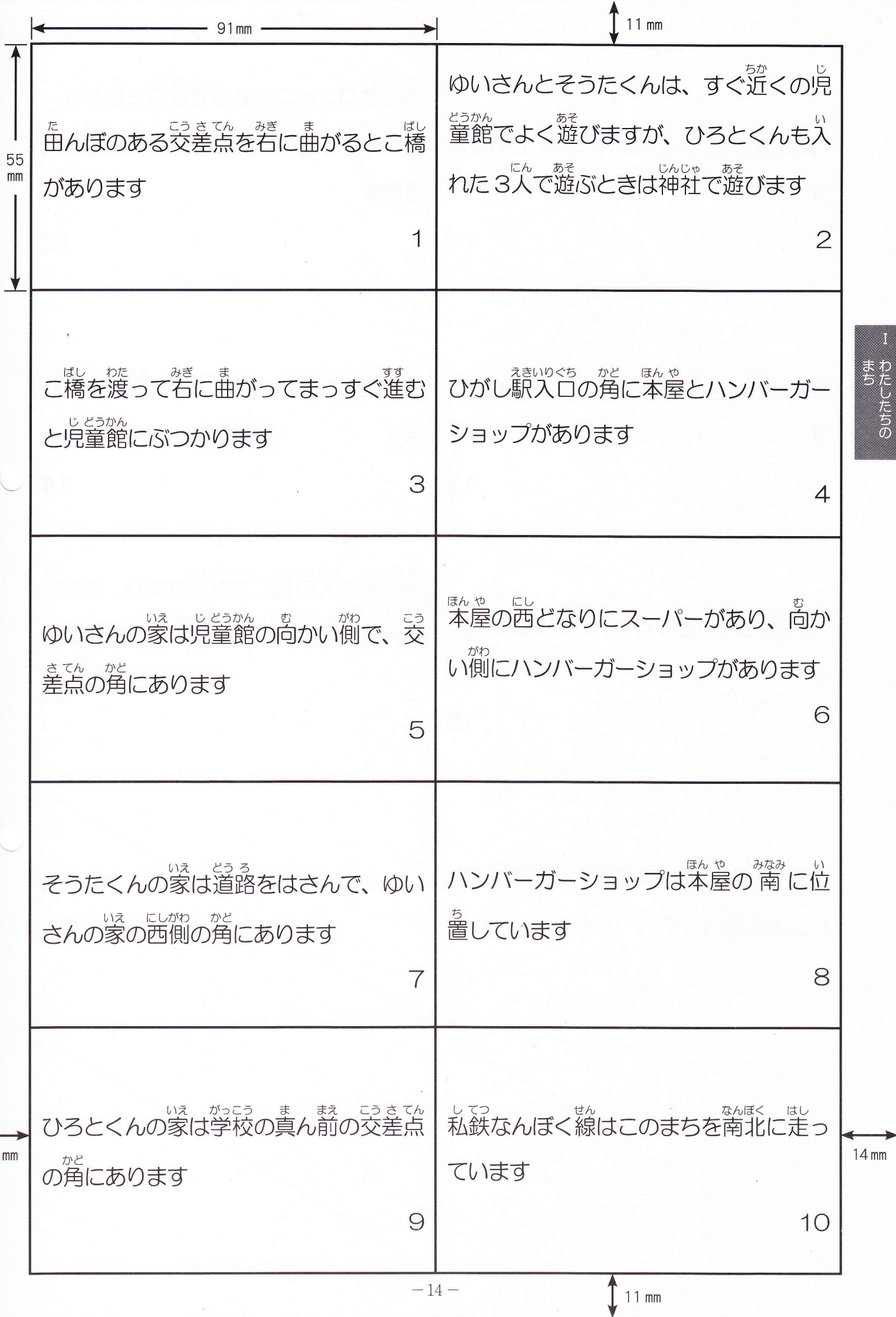


ひがし駅

I  
わたしたちの  
まち



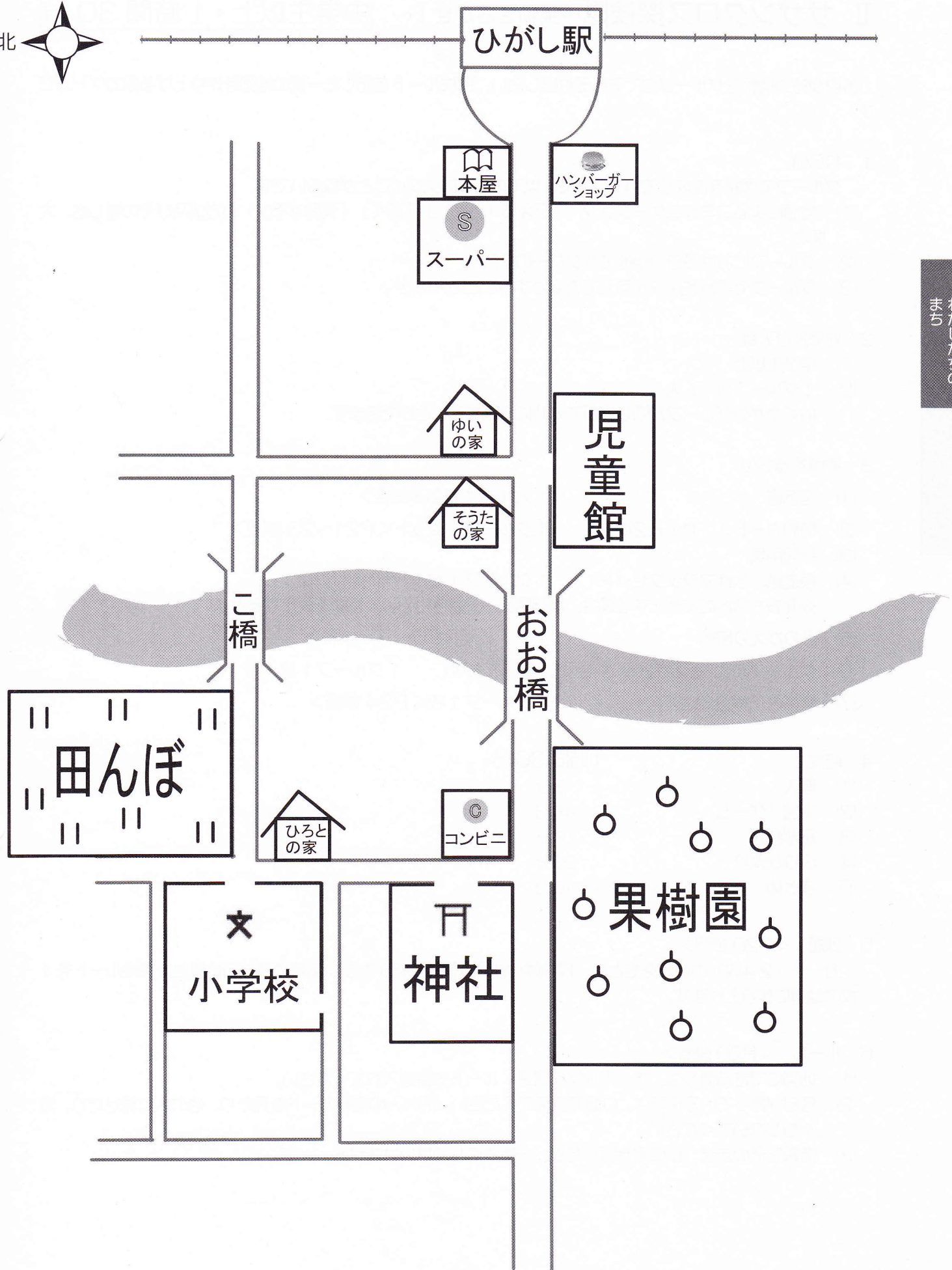




I わたしたちのまち

<p>ひがし<sup>えき</sup>駅はこのまちの一番<sup>いちばん</sup>東<sup>ひがし</sup>にあります</p> <p>11</p>	<p>神社<sup>じんじゃ</sup>とコンビニのある<sup>こうさてん</sup>交差点<sup>ま</sup>を曲がり、 北<sup>きた</sup>へ向かうと右側<sup>みぎがわ</sup>にひろとくんの家<sup>いえ</sup>があります</p> <p>12</p>
<p>ひがし<sup>えき</sup>駅から西<sup>にし</sup>へ行くとおお橋<sup>い</sup>があります</p> <p>13</p>	<p>田んぼ<sup>た</sup>は、ひろとくんの家<sup>いえ</sup>の北側<sup>きたがわ</sup>にあります</p> <p>14</p>
<p>おお橋<sup>はし</sup>を渡るとすぐ<sup>わた</sup>左<sup>ひだり</sup>に果樹園<sup>かじゅえん</sup>があります</p> <p>15</p>	<p>果樹園<sup>かじゅえん</sup>の入口<sup>いりぐちまえ</sup>前に交差点<sup>こうさてん</sup>があり、その向<sup>む</sup> かい側<sup>かわ</sup>の角<sup>かど</sup>にコンビニと神社<sup>じんじゃ</sup>があります</p> <p>16</p>
<p>ひがし<sup>えき</sup>駅からまっすぐ<sup>く</sup>来ると神社<sup>じんじゃ</sup>はコンビニより遠<sup>とお</sup>いです</p> <p>17</p>	

正解



I わたしたちの  
まち